

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平1-273395

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)11月1日

H 05 K 7/20
G 11 B 33/14
H 05 K 7/20

H-7373-5E
K-8842-5D
Y-7373-5E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 電子機器筐体の冷却構造

⑯ 特 願 昭63-101426

⑰ 出 願 昭63(1988)4月26日

⑱ 発 明 者 遠 藤 誠
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社
⑳ 代 理 人 弁理士 山川 政樹

東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
東京都港区芝5丁目33番1号
外2名

明 細 書

1. 発明の名称

電子機器筐体の冷却構造

2. 特許請求の範囲

隔壁で左右に分離した電源室と収納室とを有し、この収納室を媒体収納部と電子機器収納部とに仕切部材で上下に仕切り、前記電子機器収納部の上方に設けた前記仕切部材の開口とこの開口より上方に設けられた前記隔壁の通風口とをエアダクトで連結したことを特徴とする電子機器筐体の冷却構造。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は電子機器および電源装置を収納する筐体の冷却構造に関する。

〔従来の技術〕

従来、この種の筐体は、例えば、集合型光ディスク装置に使用されている。第2図はこの集合型光ディスク装置の縦断面図である。これを同図について説明すると、筐体1の内部は電源室2と収

納室3とに隔壁1aによつて分離されている。電源室2には電源用等の機器4a~4cが収納され、また電源室2の上部には冷却ファン8が設けられ、筐体1の上面には開口1bが設けられている。収納室3は下部の電子機器収納部と上部の媒体収納部とからなり、電子機器収納部には各2台のデッキ5aと電子機器5bとから構成される光ディスクユニット5が設置され、媒体収納部には光ディスク媒体7の入った媒体保管器6が設置されている。

この集合型光ディスク装置は電源を投入し操作を開始すると、電源室2の電源用等の機器4a~4cが発熱する。この発熱により熱せられた周囲の空気は、矢印で示すように電源室2の上部へと移動し、冷却ファン8により筐体1上部に設けた開口1bから筐体外へと排出される。一方、収納室3においては、下部に配置された上下2台の光ディスクユニット5内の電子機器5bの発熱により熱せられた空気は矢印の方向へと移動し、収納室3の上部の媒体保管手段6および光ディスク装

